

2025 年度 三次元 CAD 情報標準化専門委員会 事業計画書(案)

2025 年 5 月 9 日

委員会名称	三次元 CAD 情報標準化専門委員会 3DCAD Information Standardization Technical Committee (3D ISTE) (敬称略)		
委員会役員 および分科会 チーフ	委員長	エリジオン	相馬 淳人
	副委員長	コニカミノルタ	稲城 正高
	幹事長	Q V I ジャパン	中村 聡
	幹事	エリジオン	相馬 淳人
		Q V I ジャパン	中村 聡
		コニカミノルタ	稲城 正高
		セイコーエプソン	矢澤 和路
		東芝	藤沼 知久
		ニコン	石井 義則
		日立製作所	生方 清美
	監事	日立製作所	生方 清美
	分科会チーフ	DTPD 活用検討会	稲城 正高
	WG リーダ	幾何公差 WG	中村 聡
委員会構成 2025 年 4 月現在	正会員：13 社 ・エリジオン、Q V I ジャパン、コニカミノルタ、島津製作所、セイコーエプソン、東芝、ニコン 浜松ホトニクス、日立製作所、平田機工、富士電機、ブラザー工業、ヤマハ 賛助会員：10 社 ・アルゴグラフィックス、NTT データエンジニアリングシステムズ、クリエイティブマシン、SOLIZE、 ダッソーシステムズ、電通総研、日本航空電子工業、BIPROGY、PTC ジャパン、ブラザー		
会議開催予定	・総会 (1 回) 5/9 (次年度定期総会は 5/15 (金) 予定) ・幹事会 (4 回) 4/4, 7/4, 10/3, 1/9 (次年度第一回幹事会は 4/3 (金) 予定) ・戦略プロジェクト (12 回) (次年度は 4/24 (金), 5/29 (金) 予定) 4/18, 5/23, 6/27, 7/25, 8/22, 9/26, 10/24, 11/28, 12/19, 1/23, 2/27, 3/27 ・DTPD 活用検討会 (12 回) 開催予定は同上 ・幾何公差 WG (11 回) 開催予定は同上 (4 月を除く)		
事業計画概要	1. 全体概要 昨年度の専門委員会運営の見直し検討を受けた対応を進めると共に、2022 年から追加した タスクフォース、他団体との連携、スタートアップの活動形態にて出来ることを模索して行く。 2. 戦略プロジェクト (1) 各検討会の活動に合わせて、1 回／月の開催を目安とする。 (2) 参加者は例年通り、委員長・副委員長・幹事長・検討会チーフ・サブチーフ・プロジェ クトリーダ・監事・渉外/戦略担当とし、必要に応じて会員メンバーを追加する。 (3) 各種活動間での意思決定の迅速化に努め、必要に応じて幹事会に企画案を提案する。 (4) 委員会活動の活性化に向けて、新規会員の勧誘につながる活動を模索する。 (5) 2025-2027 中期計画検討結果を反映した。 ● 活動方針の検討 産業界ならではの 3DA モデル/DTPD/3D 正運用/幾何公差の活用を促進する。具 体的には、3DA モデルと DTPD の作成・連携のベンチマーク、国際標準や現状ツール／		

	インフラに対し必要項目・仕様の検討, 成功事例／課題（失敗事例）の収集, より多くの効果を発揮する技術テーマの発掘を行う方針とする. ● 活動体制の検討 活動体制は, タスクフォース（各産業界に関わる幅広い人達に具体的に 3DA モデル /DTPD を教えると共に, 専門委員会にない専門技術・分野・役割を取り入れたワークショップ）, 他団体との連携（活動内容を明確化して会員の成果活用を促進するワークショップ）, スタートアップ（従来活動体参加以外の会員から広く活動テーマを募集する）の活動形態について 2025 年度についても継続での運用とする. 3. DTPD 活用検討会 三次元データの業務での活用を念頭に, 具体的なアイテムについて必要なルール・技術検討を行い, 技術レポートとしてまとめ, 本来の目的である三次元 CAD データ・DTPD 活用の効果を検証して行く活動を, 関連団体の協力を得て実施する. (1) 三次元 CAD データ・DTPD を実際に活用するユーザーと連携, データ・DTPD 交換の課題を明確にし, 効率化につながる提案に結びつける. 今年度は, 「ものづくり工程に向けたデータ授受ツール・ビューワの検証」と, 「後工程での再利用を踏まえた属性付与と管理」をテーマに進めてゆく. (2) 3DA モデル・DTPD 活用に向けた情報共有の仕掛け作り 昨年度の取り組みである対面でのイベントを通じて会員相互の情報交換の機会を作り, 会員各社のニーズに応じて行くと共に, 賛助会員に対して各社のソリューションについて情報提供いただく機会を設定した情報交換会を, 活用検討会に取り込み進めて行く. 以て専門委員会の活動を活性化すると共に, DTPD 活用について会員間で情報共有を図る. (3) 幾何公差 WG ET-5102A に関しては, 前年度の検討で上がった課題点の詳細を調査し改訂版の原案につなげる. 専門委員会会員を対象に行ってきた幾何公差研修会については, 昨年度の参加者アンケートの内容を踏まえ研修テキストの更新を検討する. 「幾何公差の検証・測定例集＜基礎編 ver. 2.1＞マイナー改定版の更新作業が完了したので引き続き「実践編」の改定を行う.
特記事項	なし